

第60回 関西学院張記念館レクチャーコンサート

西洋から来た弦楽器

日本で花を開いた 独自の文化

通俗音楽の午後
覚えたい曲と歌ばかり

▽マンドリン流行の兆



大正琴
▽偽物現はる!!

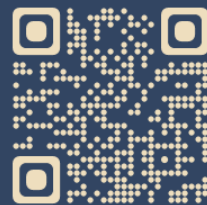
和洋を新しくして
異国の音は
日本のうたへ
暮らした根付く
その調べ



2026年
日時 4月26日(日) 14時開演
(13時30分開場)

場所 関西学院張記念館

ご予約はQRコードから



入場無料

要事前予約

先着40名まで

※お申込後3日以内に確認メールをお送りいたします
※定員に到達次第、受付を終了いたします

関西学院張記念館 レクチャーコンサートとは

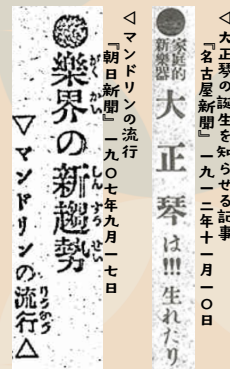
関西学院張記念館レクチャーコンサートは、音楽学者の張源祥（1899-1973）によって設立された「張記念館（旧関西音楽学研究所）」で開催されているレクチャー付きコンサートです。関西学院大学文学部美学研究室が主催し、学生が主体となって運営しています。

* * *

西洋音楽文化と日本音楽文化は、しばしば別個のものとして語られてきました。しかし日本の近代以降の音楽文化を振り返ると、西洋からもたらされた音楽や楽器は、そのまま受け入れられたのではなく、日本の生活や感性に即して用いられるなかで、独自の発展を遂げてきたことがわかります。60回目の開催となる今回の企画では、マンドリン、大正琴、そして流行歌を手がかりに、西洋由来の弦楽器文化が日本においてどのように変容し、日本独自の音楽文化として根づいていったのかを検討します。

大正琴は、西洋の弦楽器の発想を取り込みつつ、日本の音楽文化により適したかたちへと、楽器そのものが改良された例です。一方、マンドリンは西洋の楽器でありながら、日本の大衆音楽や流行歌のなかで、日本的な感性に即したかたちで受容されました。ここには、「楽器そのものを日本的に作りかえること」と「西洋の楽器を日本的に用いること」という、二つの方向性を見ることができま

す。西洋から来た弦楽器は、日本の近代音楽文化の黎明期においてどのように受け入れられ、用いられ、日本独自の音楽文化の一部となっていったのでしょうか。当日は実際の録音や映像資料を交えながら、その過程をご紹介します。



プログラム

第1部 流行歌の歴史——明治から戦前まで

講師：服部智行

江戸期からつづく伝統的音楽と、明治になって突然やって来た西洋の音楽とが混然一体となった時代の日本は、まさに新しいスタイルの流行歌が生まれる土壌そのものでした。この第1部では、第2部のお話をより楽しんでいただくためのイントロダクションとして、明治、大正から昭和初期にかけて、西洋から来た弦楽器によって日本の流行歌がどのように変化していったのかについてお話いたします。

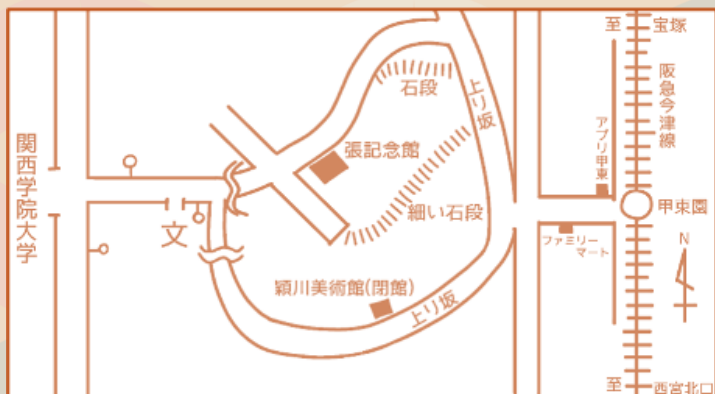
第2部 流行歌とともに——マンドリン、ヴァイオリン、大正琴

講師：貝田かなえ
木村遙

日本人の多くが着物を着て、畳の上で生活していた時代。海を越えてやってきた弦楽器は、どのように日本で受け入れられたのでしょうか。第2部では、西洋から伝わったマンドリンやヴァイオリン、日本で新しく生まれた大正琴に注目します。これらは人びとの趣味として親しまれ、やがて流行歌にも欠かせない存在となりました。当時の録音や映像を振り返りながら、日本ならではの音楽文化がどのように育まれてきたのかを、「楽器」の観点から紐解いていきます。

本企画では生演奏はございません。当時の録音や映像資料を交えながら、楽器と音楽文化の変容をたどります。

会場アクセス



関西学院張記念館（西宮市上甲東園1-11-12）

阪急今津線「甲東園」駅より徒歩5分

※ 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス内にはございません

※ 駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください

講師



服部智行

アメリカの作曲家チャールズ・アイヴズに関する研究で博士号取得ののち、以前より興味があったポピュラー音楽の歴史について研究し始める。現在は非常勤講師として関西学院大学などで、アメリカのポピュラー音楽や日本の流行歌について講義をしている。

木村遙

日本学術振興会特別研究員PD(成城大学)、関西学院大学や立命館大学などで非常勤講師を務める。博士(芸術学)。専門は17世紀から18世紀にかけてのフランスにおける楽器演奏文化。目下の関心は、ハーディ・ガーディという西洋楽器と大正琴の楽器構造の関連について。



貝田かなえ

関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程在籍。音楽学専攻。雑誌・文学資料や図像資料を用いて、近代日本におけるマンドリン受容を研究し、国内外の学会にて発表を行っている。主要論文に「学生と令嬢に演奏されたマンドリン——西洋音楽受容における特異性」『美学論究』39編（2024）がある。



お問い合わせ



関西学院張記念館

レクチャーコンサート実行委員会



kg.lectureconcert@gmail.com



0798-54-6212